

フランスにおける剣道の指導者が抱える問題点について

The Problems that the Coach of the Kendo in France

太田昌孝*, 氏家道男*, 福ヶ迫善彦**, 太田早織***, 高田大輔****

Masataka OOTA*, Michio UJIE*, Yoshihiko FUKUGASAKO**
Saori OOTA*** and Daisuke TAKATA****

ABSTRACT

The purpose of this study was to examine, when the beginner of the kendo was directed for the leader in France, what they have problems. The object is a leader in France. As a result, it became clear the following.

It has been understood to hold neither problem nor uneasiness so much about a material, money, and human conditions from the above-mentioned result in active Europe of the regional sports club. Uneasiness is held whether the content that the leader directs to the beginner is appropriate on the other hand.

Key words; France, Kendo, Coach, Problem

I. は じ め に

新しい中学校学習指導要領（文部科学省、2008）では、武道が必修化となった。武道は、改正教育基本法で規定された教育の目標である「我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う」上でも大変有効であると考えられる。しかしながら、いくつかの問題点もある。それは、用具・施設の問題、指導者の力量等である。我が国の学校教育環境ではこれらの問題を十分に解決できる状況にあるとは言えず、早急な対応が急がれる。

一方、我が国の伝統的な運動文化の一つである剣道は、世界剣道大会（World Kendo Championships）、

ヨーロッパ剣道大会（European Kendo Championships）が行われ、その競技者数も増加の一途を辿っている。太田ら（2002）によると、剣道の普及過程は大きく3つに分けられる。それは、①移民とともに定着したタイプ（ハワイ、ブラジル、アメリカ西海岸など）、②戦前の日本統治下で芽生え定着したタイプ（韓国、台湾など）、③第二次大戦後に剣道が芽生えて定着したタイプ（ヨーロッパ、オセアニア、東南アジアなど）である。①②は比較的日本系またはアジア系社会の中で、③では剣道との最初の接点はさまざまであるが、剣道に興味を示し、デモンストレーションや全日本剣道連盟（以下、「全剣連」とする）の短期巡回講習会などをきっかけに芽生え、

* 国士舘大学体育学部（Faculty of Physical Education, Kokushikan University）

** 愛知教育大学教育学部（Faculty of Education, Aichi University of Education）

*** 日本体育大学大学院体育科学研究科（Graduate School, Nippon Sport Science University）

**** 愛知教育大学大学院教育学研究科（Graduate School, Aichi University of Education）

青年海外協力隊といった長期の日本人指導員や在留邦人で剣道経験者の指導、また外国人剣道愛好者自身の訪日経験などを重ねていくうちに次第に広がっていったものである。このようにヨーロッパでは、剣道が草の根的に広がりを見せ、着実に定着しつつあり、普及過程からも剣道のさらなる普及の重要な拠点となるだろう。他方で、ヨーロッパでの剣道は、成熟期にあるといえ、いくつかの問題点を包括している。このような問題を解決しなければ、愛好者の減少は間違いなく、早急の対応が急がれる。

我々は（太田ほか、2005）、ヨーロッパ諸国における剣道実践者の継続要因を明らかにすることを目的とし、フランス、スイス、ハンガリーに母体をおく剣道のクラブに所属する335名を対象に分析を行った。その結果、剣道実践者の継続要因は「余暇活動」「競技志向」「剣道家への憧れ」「社会的態度の成長」の4つから構成されていることを明らかにした。また、各因子間の相関係数を検討してみたところ、すべての因子間において中程度の相関係数が認められ、この4つの継続要因を満足させることが継続動機の高まりを生み出すことを明らかにした。さらに、継続動機と「総合的な継続性」との関係から、剣道を教える指導者（師範）が技術的・人格的に優れている必要があり、そのような指導者に指導されることによってさらに剣道を続けようという継続性に影響を及ぼすことが明らかになった。つまり、ヨーロッパ諸国をはじめとする諸外国で剣道を普及させる際、①指導者の育成、②多彩な継続動機を満足させる指導カリキュラムの作成等が必要とされ、今後、剣道の普及活動に携わる剣道家の課題となる。

そこで本研究は、フランスの指導者を対象に、剣道の初心者指導の際、どのような問題を抱えているか明らかにすることを目的とした。

Ⅱ. 方 法

1. 期日・対象

調査は、2008年10月中旬から11月下旬にかけ

て実施した。被調査者は、フランスに母体をおく剣道のクラブに所属する66名の有段者である。なお、有効回答は、61通（92.4%）であった。

2. 調査票の作成

調査票は、段位のほかに、「あなたが初心者を目指すとき、不安に思うことや十分とはいえないことはないですか」という指導上の問題点についてクラブ運営の資金は十分ですか、必要な道具は揃っていますか、稽古に必要な場所は確保できていますか、十分な稽古を行える人数ですか、あなたは礼儀作法を十分に把握していますか、あなたは試合審判規則を把握していますか、あなたは段階的な指導方法を身に付けていますか、あなたは稽古中にしっかりと指導ができていますか、あなたは目標を立てて稽古を行えていますか、初心者同士の関係は問題ありませんか、あなたと初心者の関係は良好ですか、初心者に十分な練習量を確保できていますか、練習のメニューは初心者に合わせていますか、怪我や病気などの救急処置を熟知していますか、救急処置に必要な道具は揃っていますか、他の指導者と十分な連携は取れていますか、初心者指導があなたの負担になっていませんか、初心者を勧誘する十分な情報提供ができていますか、十分な指導者の数は足りていますか、初心者指導であなたの段位で十分であると思いますか、あなたは剣道形を指導できますか、について質問した。調査項目の選定は、体育・スポーツ事業（area service, club service, program service, information service）の4観点を参考に行った。その後、剣道の専門家間で項目内容を検討し決定した。フランス語訳にあたっては、フランスに長期滞在経験のある剣道の専門家に依頼した。

3. 統計処理

本研究における統計解析の手続きは、SPSS 11.0J for Windowsに依る。

Ⅲ. 結果と考察

1. 調査対象者の段数

表1に示したとおり、本研究で対象とした指導者の段数は、約半数が4段以上であった。また、2段以上の指導者は90%であり、剣道に対して真摯に取り組んでいると推測でき、本研究の対象として適していると判断できる。

2. 指導上の問題点や不安

①活動条件

表2は、活動内容や場所等に関する情報の提供

や、十分な活動場所と指導者が確保できているかに関する質問の結果である。表から、活動を行う上で必要な場所や指導者は確保できているものの、その情報を地域住民（初心者になるであろう）へ伝え切れていないことがわかる。

②もの・金銭的条件

表3は、物的・金銭的条件に関する質問項目の結果である。調査前は、クラブの資金面で不安や問題を抱えていると予想していた。しかしながら、50%から60%程度の指導者が満足していることがわかった。他方で、救急処置に必要なものは十

表1 調査対象が取得している段位

初段	二段	三段	四段以上
6(9.8)	13(31.3)	14(23.0)	28(45.9)

表2 活動条件に関する問題点や不安

	はい		どちらでもない		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
3 稽古に必要な場所は確保できていますか	56	91.8	3	4.92	2	3.28
4 十分な稽古を行える人数ですか	52	85.2	4	6.56	5	8.2
18 初心者を勧誘する十分な情報提供ができていますか	35	57.4	14	23	12	19.7
19 十分な指導者の数は足りていますか	51	83.6	2	3.28	8	13.1

表3 もの・金銭的条件に関する問題点や不安

	はい		どちらでもない		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 クラブ運営の資金は十分ですか	32	52.5	16	26.2	13	21.3
2 必要な道具は揃っていますか	42	68.9	7	11.5	12	19.7
15 救急処置に必要な道具は揃っていますか	23	37.7	13	21.3	25	41

分に備えていないことがわかる。

③指導者の力量

表4は、指導者の力量に関する調査の結果を示している。指導者たちは礼儀作法について十分に熟知していると認識しているようである。また、剣道形に関する指導も十分に行える指導力を有していると自認している。他方で、審判規則を把握していない指導者が20%近くいることは非常に

問題であり、我が国が伝統的運動文化として継承してきた立場からも規則の徹底を図る交流が必要であろう。また、稽古中に指導できているか、段位が十分であるかについて積極的な解答が少なかったことや、指導方法が身についているか自信を持てていない結果を踏まえると、指導に関する国際的なスタンダードの作成が求められる。

表4 指導者の力量に関する問題点や不安

	はい		どちらでもない		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
5 あなたは礼儀作法を十分に把握していますか	58	95.1	3	4.92	0	0
6 あなたは試合審判規則を把握していますか	39	63.9	10	16.4	12	19.7
7 あなたは段階的な指導方法を身に付けていますか	43	70.5	12	19.7	6	9.84
8 あなたは稽古中にしっかりと指導ができていますか	45	73.8	14	23	2	3.28
9 あなたは目標を立てて稽古を行えていますか	52	85.2	5	8.2	4	6.56
14 怪我や病気などの救急処置を熟知していますか	27	44.3	12	19.7	22	36.1
17 初心者の指導があなたの負担になっていませんか	13	21.3	12	19.7	36	59
20 初心者指導であなたの段位で十分であると思いますか	43	70.5	10	16.4	8	13.1
21 あなたは剣道形を指導できますか	51	83.6	5	8.2	5	8.2

表5 指導者の社会性に関する問題点や不安

	はい		どちらでもない		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
10 初心者同士の関係は問題ありませんか	6	9.84	7	11.5	48	78.7
11 あなたと初心者の関係は良好ですか	56	91.8	4	6.56	1	1.64
12 初心者に十分な練習量を確保できていますか	47	77	4	6.56	10	16.4
13 練習のメニューは初心者に合わせていますか	52	85.2	6	9.84	3	4.92
16 他の指導者と十分な連携は取れていますか	49	80.3	10	16.4	2	3.28

④指導者の社会性

表5は、指導者が初心者のお手本や他の指導者と友好的な関係にあるか検討した結果である。結果から、本研究で対象とした指導者は非常に好意的であることがわかる。一方で、初心者の練習機会を潤沢に確保できていないという回答が10名(15.4%)いた。運動やスポーツにおける初心者の満足度は、運動量や成功体験量によって大きく左右される。したがって、初心者指導に関するスタンダードや指導書が作成されると、より初心者が満足できる活動を展開できるであろう。

Ⅳ. ま と め

本研究は、フランスの指導者を対象に、剣道の初心者を指導する際、どのような問題を抱えているか明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。その結果以下のことが明らかとなった。

- 活動を行う場所や指導者については、不安や問題を抱えていない。
- 活動に関する情報の提供が十分でない。
- 金銭的・物的条件については、不安や問題を抱えていない。
- 審判規則を把握していない指導者が存在し、また、自身の指導が適切であるか判断できていない指導者がいる。
- 初心者の指導で、潤沢な運動量や成功体験を

保障しているか不安を抱えている指導者がいる。

以上の結果から、地域スポーツクラブの盛んなヨーロッパにおいては物的・金銭的・人的条件についてはあまり問題や不安を抱いていないことがわかった。一方で、指導者が初心者へ指導する内容が適切であるかに関する不安は抱えている。

引用・参考文献

- 1) 阿部哲史(2003)欧州から見た剣道の国際化. 剣道日本28(11):52-58.
- 2) 阿部哲史(2005)ハンガリーであった2つのニュースと、そこから考える国際化の行方. 剣道日本30(6):64-65.
- 3) 平川信夫(1997)剣道の国際化に関する研究. 明治大学人文科学研究所紀要42:84-144
- 4) 剣日調査局レポート(2005)国際化への第一歩は早くも足踏み!?. 剣道日本30(7):148-149.
- 5) 村田直樹(2005)国際化時代の今だからこそ、武道の教育的価値を問う. 体育科教育53(11):14-17.
- 6) 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房:京都
- 7) 太田昌孝・杉山重利・福ヶ迫善彦(2005)ヨーロッパ諸国における剣道実践者の継続要因に関する検討—特に、フランス、スイス、ハンガリーを対象として—. 体育・スポーツ科学研究5:25-29.
- 8) 太田順康・竹田隆一(2002)剣道の国際化に関する一考察. 大阪教育大学紀要50(2):473-486
- 9) 杉山重利・小山泰文・福ヶ迫善彦(2004)フランスにおける柔道指導者の指導方法と指導観に関する検討. 国士舘大学体育研究所報23:29-34.